再生へ――東北6県 未来を

宮城県

自動車産業へ参入・取引拡大

受注・人材育成に力

みやぎ自動車産業振興協議会主導で2013年度に実施したアクア部品技術研修

宮城県では産学官金で組織する「みやぎ自動車産業振興協議会」（井口泰孝代表幹事＝みやぎ産業振興機構理事長）が地元企業の自動車産業への新規参入と取引拡大を考える任意団体として大きな役割を担っている。旧関東自動車工業（現トヨタ自動車東日本）岩手工場（岩手県金ケ崎町）の増産の動きに対応して2006年に設立後、会員数を伸ばし、現在は約550社・団体にもなる。

だが、県内の自動車産業の振興は決して平たんではなかった。象徴的存在だった旧セントラル自動車宮城工場（現トヨタ自動車東日本宮城大衡工場、宮城県大衡村）が2011年1月に稼働した直後に東日本大震災に見舞われ、県内製造業は大打撃を受けた。同年7月にトヨタグループが東北を中部、九州に次ぐトヨタ第3の国内生産拠点と位置づけ、12月には東北の地に根付き、地域と一体となったモノづくりをめざす方針の下、大衡村に新会社設立を表明するなど、一躍ドラマの舞台となった。

12年7月設立のトヨタ自動車東日本は「世界No.1の魅力あるコンパクト車の提供」を掲げ、域内調達を強化する「東北現調化センター」などの設置を明示。これを受けて同協議会は自動車産業を震災からの復興のけん引役とし、宮城の再生とさらなる原動力とすべく、県震災復興計画と歩調を合わせ、11年度から10年間の行動計画方針「みやぎ自動車産業振興プラン」を12年5月に取りまとめた。

協議会はトヨタ自動車東日本とそのサプライヤーを中心に自動車の量産部品などの新規参入・取引拡大件数を10年間で3000件以上という大きな目標を掲げる。12年度の新規受注件数は48件、13年度は同49件。県経済商工観光部の佐々木均自動車産業振興室長は「一定の受注はしている。さらに受注を増やすために既存の受注企業を回り、分析することで次の段階に進みたい」と意気込む。

「受注獲得」「人材育成」「技術開発」が同プランの3本柱。特に受注獲得と人材育成に力を入れ、技術展示商談会や各種セミナーを重ねてきた。「地元企業は各種機会を通じて自社の参入について判断している時期。次の段階に進みたいと考える企業の機運が高まった時、さらに効果的な支援を検討したい」（佐々木室長）と地元企業のさらなる自発的な盛り上がりを期待する。

一方、トヨタ自動車東日本設立に伴い、県の活発な企業誘致が進む。今年4月にはスタンレー電気の関係会社のスタンレー宮城製作所（宮城県登米市）が自動車向け部品の本格的な量産工場を視野に同市に今年9月にも新工場を着工する計画。豊田合成の東北地域統括会社のTG東日本はドア周りのゴム製品など自動車用部品を生産する工場を今夏にも栗原市で着工する見通し。県産業立地推進課は「引き続き、東北または宮城県に自動車関連企業の誘致を図りたい」と集積に取り組む。

山形県

次期産業振興プラン策定

5年先をにらんで

山形県は現行の「山形県産業振興プラン」の計画期間が2014年度末で終了することから、次期産業振興プランの策定に乗り出した。今月10日に山形市の県自治会館で山形県産業構造審議会の初会合が開かれ、審議が始まった。初会合の冒頭に吉村美栄子知事は「次期産業振興プランは本県の産業の発展に向けた今後の道しるべになるもの。将来の方向性を探ってほしい」と語った。

いかに山形県の産業を成長させていくのか。人口減少、地球規模で経済活動が進展する中で、地域経済の活性化が強く求められている。同審議会の会長に就いた長谷川吉茂山形銀行頭取は「楽観はできない面もあるが、個別の企業の中には実績を上げているところもある。今後は明るい面も感じる。山形の新しい姿を描いていけるのではないか」と強調。同審議会で〝山形らしい〟産業を育て、発展していくプランをまとめるための活発な議論を各委員に呼びかけた。

次期産業振興プランの位置づけは、「第3次山形県総合発展計画」（計画期間・09年度からおおむね10カ年）の「産業・経済」分野のうち、主として商工・労働・観光分野での具体的な施策の方向や振興策を示すものになる。計画期間は15年度から5カ年。9月には中間のとりまとめが行われ、15年2月には知事に答申する予定。

次期産業振興プランでは、ものづくり、商業・まちづくり、観光、ブランド力向上、国際経済交流の5分野での振興策の検討結果などを反映してまとめる。「ものづくり」に関しては県産業構造審議会に「ものづくり部会」を設置した。ものづくり部会長には飯塚博山形大学工学部長が就いた。15年度にスタートする県工業技術センターの新長期ビジョンも連動させる形で、「ものづくり技術振興戦略（仮称）」を新たにまとめて次期産業振興プランに反映させていく。年内にはものづくり戦略をまとめる予定。県は「研究機関と各支援機関が連携する一体的な取り組みを探り、〝山形〟の技術力の可能性を引き出していく」（商工労働観光部産業政策課）考えだ。

現時点で次期産業振興プランの目標は、現行プランで示す「地域資源と多様な絆をもとに固有の価値を生み、安定的に発展し続ける『産業・経済』の実現」を引き継いでいく方向にある。戦略としては、「やまがたの明日を切り開く産業の振興」「やまがたの産業を担う中小企業・小規模事業者の振興」「やまがたの産業の源となる人材の確保・育成」の三つを柱とするイメージを示した。

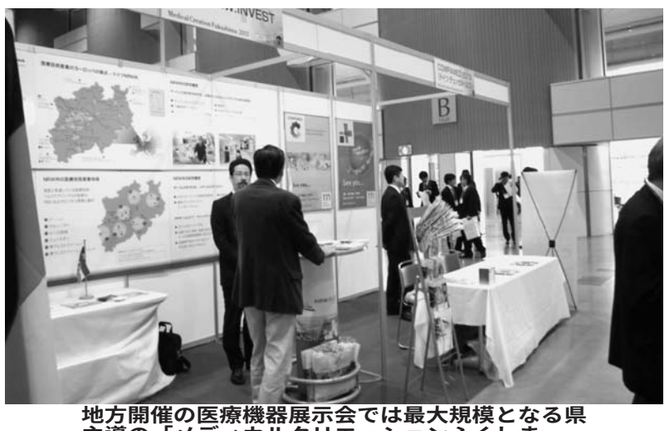
ものづくり分野では、競争力を持つものづくり産業群の形成に向けて、山形のものづくり産業の基盤強化などに一段と取り組むことになる。製造業の付加価値額の引き上げを課題とする山形県。個々の潜在能力を引き上げて、次の展開につなげるプランが注目される。

今月10日に開かれた山形県産業構造審議会の初会合

福島県

進む事業化拠点整備

医療関連の集積加速



地方開催の医療機器展示会では最大規模となる県主導の「メディカルクリエーションふくしま」

福島県は2005年度から「うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト」を推進している。2012年の医療機器生産額は1089億円で全国4位、医療用機械器具の部品等生産額は123億円（11年度）で全国1位とされ、全国有数の医療機器生産県。大手医療機器製造企業の生産拠点が集積するほか、県内に立地する大学でも医療機器関連の研究が盛んだ。

県は東日本大震災以降、「県の再生の推進力となる産業」として「福島県復興計画」の重点プロジェクトの一つに「医療関連産業の集積」を掲げ、産学官連携による医療機器の研究開発や集積化を進めたい考えだ。

同プロジェクト推進のために掲げた基本戦略は、①研究開発推進、②参入支援・地域活性化、③医工連携・人材育成、④情報発信・海外展開―の四つ。これを円滑に進める母体として拠点を整備していく。

研究開発を推進するための補助金として、震災からの復興促進を目的とした予算総額77億円の「ふくしま医療福祉機器開発事業費補助金」では46件が採択。また、総額60億円の「国際的先端医療機器開発実証事業費補助金」で2件採択され、総額14億円の「革新的医療機器開発実証事業費補助金」でも5件採択されている。

情報発信や海外展開支援も活発化している。県が中心となって進める医療機器の展示会「メディカルクリエーションふくしま」は14年度に10回目を迎える。出展数は増加傾向にあり、13年度は221企業・団体が出展。海外企業の出展も進む。また、世界最大の医療機器・医療製品の見本市「MEDICA」への企業の出展を後押しするほか、日本貿易振興機構（ジェトロ）の「地域間交流支援（RIT）事業」で14年度中に独・NRW州と福島県で医療福祉機器産業の企業間交流に関する覚書を締結する見通しだ。

拠点整備も相次ぐ。福島県立医科大学では「ふくしま国際医療科学センター」の着工が始まった。今後、がん治療に有効な診断薬・検査試薬などを創出支援する「医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター」などが設置され、16年度の早い時期に開所する。

「福島県医療機器開発・安全性評価センター（仮称）」の構築も進む。国内初となる大型動物飼育実験による医療機器の安全性評価などを行い、医療機器の開発から事業化までの総合的支援と安全確保を行う。運用費を含め総額134億円のプロジェクトで郡山市の県農業試験場跡地に14年秋にも着工する計画。16年度早期の開所を目指す。

立地企業の生産施設費用への支援も本格化している。14年度の新規事業として、予算総額18億円の「福島医療・福祉機器開発・事業化事業費補助金」で7件採択された。

「開発された製品が事業化されることが当面の目標。今後は出口支援に力を入れる」と吉田孝商工労働部次長は強調する。

14年度後半にも始まる次期プロジェクトでは、被災県として、救急・災害対応医療機器の開発など特化した分野の支援への強化を検討中だ。

復興から
新たな時代を切り開く
東北を支えるモノづくり企業群

信頼と和で築く確かな未来
株式会社 阿部和工務店
代表取締役会長　阿部和央
代表取締役社長　船山克也
仙台市青葉区上杉一丁目17番18号 銅谷ビル
☎（022）264-0411(代)
URL http://www.abekazu.co.jp

Industry Members Club
新会員募集中!!
東北4産業人クラブ
宮城・山形・福島・いわき

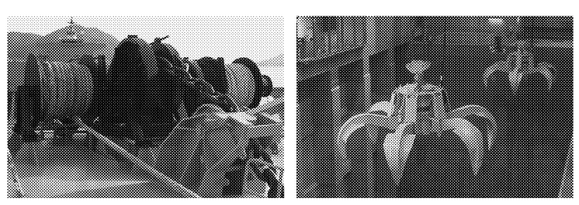
時代のニーズに即応した
岩機の製品
アルミ・亜鉛
ダイカスト製品
鉄・ステンレス・チタン
モルダロイ製品(MIM)
岩機ダイカスト工業株式会社
ISO 9001 JQA-QMA11202　ISO 14001 JQA-EM6904
〒989-2204　宮城県亘理郡山元町鷲足字山崎51の2
Eメール　info@iwakidc.co.jp
TEL (0223)37-3322㈹　FAX (0223)37-3720
ホームページ　http://www.iwakidc.co.jp/

技(わざ)が奏でる調べに敏感。

研究技術開発の
新領域をクリエイト
You need it,We create it.
TECHNOLOGY COMMUNICATION
株式会社東栄科学産業
本社／〒982-0032 仙台市太白区富沢四丁目8番29号
TEL.022-743-3221㈹　FAX.022-743-3235
http://www.toei-tc.co.jp/top.html

今が、モノづくり革新の時。
様々な荒波を乗り越えた日本のものづくりを支えていきたい。
ハイパワー高精度直流スイッチング電源

新開発小型ハイパワースイッチング電源SPシリーズは、当社が長年培ってきた高精度直流安定化電源の開発技術を生かしハイパフォーマンスを実現させた直流安定化電源です。
◉1KW type
◉2KW type
◉3.3K~10KW type
◉10K~30KW type
工藤電機株式會社
■本社　〒982-0034 仙台市太白区西多賀三丁目1番5号
TEL:022-245-2141　FAX:022-245-2485
■名取事業所　〒981-1225 宮城県名取市飯野坂三丁目1番38号
TEL:022-382-3155　FAX:022-382-3124
http://www.kudo-denki.co.jp/

ISO 9001認証取得
OHSAS 18001認証取得
Fukushima
ISO14001認証取得
甲板機械とグラブバケットの

株式会社 福島製作所
◆舶用甲板機械　◆海底油田開発用アンカーハンドリングウィンチ
◆グラブバケット　◆鋳造品・機械加工
代表取締役社長　藤原英男
〒960-8054　福島県福島市三河北町9番80号
TEL. 024(534)3146・FAX. 024(533)8318
URL　http://www.fukusei.co.jp